

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

なし

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):

増田佳正・東京理科大学経営学部国際・教授(慶應義塾大学院特任教授、米 Carnegie Mellon 大学院教員)

共同研究者(氏名・所属機関・職名): なし

研究課題名: グローバル組織でのデジタル・トランスフォーメーションの過程と遂行: グローバル・リーダーシップ育成とイノベーション創出に向けて | 研究期間: 2022 年 10 月 15 日 ~ 2024 年 8 月 16 日

概要: (1,000 字以内で記述)

以下の(1)~(4)について調査研究を実施した。

(1) デジタル・トランスフォーメーション遂行プロセスを考慮したイノベーション創出関連の実践研究

欧州開催 KES-SDF HCIS 国際会議(2023 年 6 月)にてデジタル・トランスフォーメーション遂行プロセスによる 4 つの Global 組織での進め方を比較分析した Paper が採択され発表[1]。その後 ICIS 国際会議(2023 年 12 月インド開催)にて上記関連 WS が採択され実施[2]。経営情報学会誌(2025 年)でも出版。

(2) デジタル戦略策定手法とグローバル・リーダーシップのスタイル・スキル要素の相関に関する研究

米国ミネアポリス開催の AMCIS 国際カンファレンス(2024 年 8 月)にて、当件の Work Shop Proposal が採択され当 WS を成功裡に実施。(米欧 Professor/Researcher 20 名参画)経営情報学会誌へ掲載[5]。

(3) 事例研究 (グローバル・リーダーシップ育成とイノベーション創出に向けて)

HCIS 国際会議(2023 年 6 月)にてデジタル・トランスフォーメーション遂行プロセスによる 4 つの Global 組織の事例研究を比較分析した Paper が採択され発表[1]。また、ICIS 国際会議(2022 年 12 月)の WS/Technology Research and Education(TREO)Track でも複数のケーススタディについて発表[4]。

(4) 海外(米国等)と日本でのリーダーシップ・マネジメントスタイルの在り方に関する研究

ICIS 国際会議(2023 年 12 月インド開催)にて当件 Workshop が Main Conference で採択され実施[2]。

同じ ICIS 国際会議にて、当件の Panel 討議 Proposal 「IS Leadership for Digital Transformation: Effectiveness in EA and Software Design」も採択を受け成功裡に実施[3]。(米欧 Professor の Panelist 6 名, 他 20 名参画)

この結果、以下の成果[1]~[5]を発表した。

[1] Yoshimasa Masuda, "Applying AIDAF for digital transformation toward ecosystem in global enterprise." *International KES Conference on Human Centred Intelligent Systems*. Singapore: Springer Nature Singapore, (2023). p. 164-176.

[2] Yoshi Masuda, Jain, R. Angle, J "Architecture Strategy and Technology Management for Digital Leaders." ICIS2023 WS.

[3] Yoshi Masuda, et al. "IS Leadership for Digital Transformation: Effectiveness in EA, Software Design." ICIS2023 Panel.

[4] Yoshimasa Masuda, "Architecture for Digital Transformation Toward IS Leadership: Case Studies." ICIS2022 WS/TREOs.

[5] Yoshimasa Masuda, "Digital Strategy and Architecture SIG~ Toward Collaboration with Pacific Asia region and Japan."

Annual Conference of Japan Society for Management Information 2023. JASMIN, 2024.

* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します